

戦争を知ること、 平和を守ること。

私たちが平和に暮らしている一方で、世界では平和とはほど遠い状況に置かれている国もあり、今も多くの人々が傷つき苦しんでいます。昭和20年ごろ、同じことがこの小さな豊山町でも起こっていました。

終戦記念日を迎えるこの8月に改めて、戦争を見つめなおし、過去を知ることが、未来の平和を守る第一歩です。

豊山町での戦争の記憶 ～あの頃の記憶を、次の世代へ～

令和7年度の【戦後80年特別企画】として、当時、実際に豊山町で戦争を体験された6名の方々にお話を伺いました。

昭和20年(1945年)、豊山町(当時・豊山村)にも戦争の爪痕が刻まれました。空襲警報が鳴り響き、防空壕に身を潜めた日々。爆弾が落ち、かけがえのない命と家屋が失われた現実。そして、今の県営名古屋空港の滑走路を造るために、子どもたちまでが石拾いに駆りだされた記憶——。

空襲警報が鳴ると家族みんなで庭の防空壕へ飛び込んだ——そんな体験が、当時の日常でした。「いつ爆弾が落ちてくるかわからない恐怖の中で、毎日過ごしていた」と語ります。



昨年役場や社会教育センターで上映した映像をYoutubeでも公開しています。

戦後80年以上が経ち、戦争の記憶は日々遠ざかっています。貴重なお話に耳を傾けてみませんか。



豊山町平和都市宣言

平成7年12月18日 議決

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

しかし、今なお核兵器の存在が世界の平和と人類の生存に、大きな不安をもたらしています。

こうした状況のもとで、わが国は世界唯一の被爆国として、すべての核兵器の廃絶を世界に訴えつづけて行かなければなりません。

戦後50周年を迎えた節目の年にあたり、非核三原則を堅持し、「安全で明るく住みよい町」の実現をめざして「平和を推進する町」であることを、ここに宣言する。